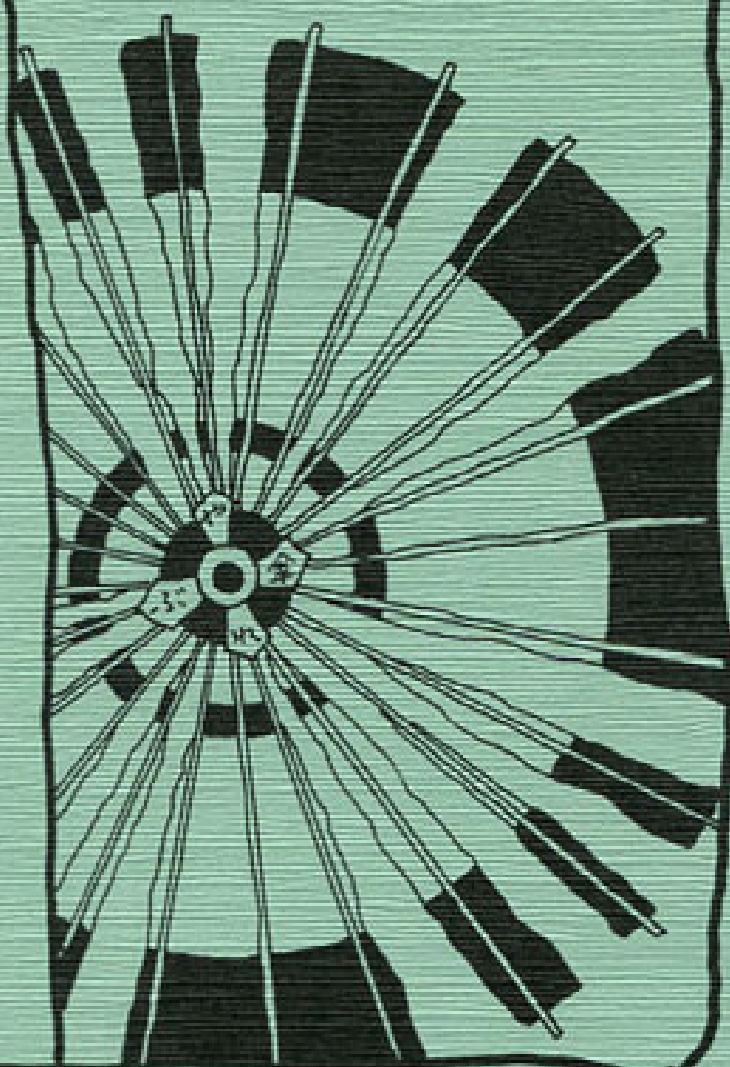


# やぶれ傘



六十四号

二〇二二年二月

画展守る人膝掛をして隅に  
 裸木の烏もろとも吹かれぬる  
 店員の道掃いてゐる霜の朝  
 煤払ひ机ひとつを置く書齋  
 泥舟のただよふ波に家のかげ  
 雪婆川原の砂は乾きけり  
 昼の電車みなマスクして座りをり  
 炬開きや織部好みの瀬戸茶碗  
 冬霧や鶏卵<sup>たまご</sup>取り出す硫黄泉  
 黄落の奥に黄落絵画館  
 焼き鳥の串の数ほど酔ひにけり  
 逝く年に逝きし手に手を合はせけり  
 用水を挟む田と畑木守柿  
 身に入むやランプの宿の波の音  
 落花生洗ふ両手に日の暮るる

根橋宏次  
 きうちきみえ  
 大島英昭  
 廣瀬雅男  
 秋葉貞子  
 天野美登里  
 藤井美晴  
 瀬島洒望  
 丑久保勲  
 安藤久美子  
 久世孝雄  
 國保八江  
 渡邊孝彦  
 有賀昌子  
 秋山信行

抄集 句選 傘紀 大崎 ね ぶ や

窯元に人をいざなふ柿紅葉  
 炬話や烏は鳩を喰ふなどと  
 冬薔薇二階にひと日籠りけり  
 里芋の転げ落ちそな猫車  
 イマジンの流るる松の手入れかな  
 我が妹は異郷に一人秋出水  
 沢庵や汽車ゆくたびに揺るる店  
 犬ころの犬に寄りゐる冬隣  
 ポケットに凍えし握りこぶしかな  
 白鳩の鳥居に並ぶ雪催ひ  
 宴果てて星空仰ぐ冬至かな  
 黄落の広き蓑を覆ひけり  
 冬椿咲きつぐ道を曲がりけり  
 雪の朝バッハの調べ流れ来る  
 带状の落葉の流れ神田川

岡田香緒里  
 小川 滋  
 上林富子  
 神山市実  
 忽那みさ子  
 黒木東吾  
 小山陽子  
 白石正躬  
 高橋 均  
 高柳正幸  
 都丸スミ代  
 広瀬 濟  
 松波丈子  
 松村光典  
 村田 武

マスク

藤井美晴

街川のにごりて白し暮れ早し  
初時雨いつもの刻に野良猫来  
坂道を風吹き上ぐる枯芙蓉  
魚市を出て冬波のしぶきかな  
置炬燵同じ頁を開けしまま  
鴨七羽スワンボートについてゆく  
昼の電車みなマスクして座りをり  
校門に雪の残れる日曜日  
角を曲がるや天狼の蒼きこと  
寒鯉の見上ぐる橋を過ぎにけり

炉開き

瀬島洒望

古雑誌読み返しぬる夜長かな  
黄落のはじめとなりぬ大櫛  
炉開きや織部好みの瀬戸茶碗  
農夫去る田仕舞ひの火をそのままに  
小春日や父残したる備忘録  
酒蔵の名入りの徳利隙間風  
冬の雨らしからぬ降り潦  
聖歌隊ほんの触りを聴かせけり  
ひとしきり降り風花となりにけり  
北門に門差され冬桜

小 春

丑久保勲

仕込み蔵の注連縄と紙垂菊の鉢  
飛び飛びに入賞の札菊花展  
反物を広げ比べる小春かな  
冬霧や鶏<sup>たまご</sup>卵取り出す硫黄泉  
菜園の煙に冬の温みかな  
胸反らすラジオ体操冬に入る  
顔見世のまねき程好く傾ぎけり  
蹲の水舐める猫実南天  
植木屋の午後の茶を飲む実万両  
数へ日の駅に七福神の幕

古日記

安藤久美子

黄落の奥に黄落絵画館  
顔見世のさまに懸崖菊の列  
濡縁に冬至の陽射し木々の蔭  
クリスマスツリー暮しの真ん中に  
こがらしを零すネオンの裏通り  
数へ日の昼餉館ぱんメロンぱん  
半券を栞にしたる古日記  
ぱたぱたと日暮れへ向かふ大晦日  
松の雪傘の雪へと落ちにけり  
掌に馴染むカップ冬陽は珈琲に

冬の蠅

久世孝雄

「この木の実何の木の実」と聞かれけり  
病む犬の声のかすれて冬に入る  
神木の 一際 高き 神の 留守  
灯油切れ知らせるサイン日短か  
虻うなる 廁の 脇の 花 八つ 手  
雑炊に 玉子の 黄身を 落と しけり  
磨かれし 柱の 太き 冬座 敷  
焼き鳥の 串の 数ほど 酔ひにけり  
「派手かな」と子にセーターを贈らるる  
シースルーエレベーターに冬の蠅

逝く年

國保八江

裏庭の土の湿りや実南天  
炉話に出羽の一夜の更けにけり  
築山も屋敷稲荷も小春かな  
山寺の庭の向うの冬菜畑  
茅葺の古りし鐘楼紅葉散る  
手の中の茶の花匂ふ夕ぐれに  
笹いつぱい不揃ひの柚子貫ひけり  
風花の大内宿となりにけり  
前山を冬霧のぼる湯宿かな  
逝く年に逝きし子に手を合はせけり



木守柿

渡邊孝彦

稲架に網掛けする漢谷戸の朝  
雨水の溜る砂利道秋あかね  
磨き粉を歯刷子につけやや寒し  
脳神経病院へ行く道の柿  
肌寒や駐輪場に鳩のこゑ  
釣り上げし魚いとよりと教へらる  
用水を挟む田と畑木守柿  
檻褸市を人の流れに乗りゆけり  
くしやくしやの枯葉を残すプラタナス  
白壁に冬木の影の薄きかな

秋 早

有賀昌子

身に入むやランプの宿の波の音  
秋 早 海水を撒く 漢かな  
亀の手てふ貝は礁にいわし雲  
潮溜り鯨のうじやうじやをりにけり  
熔岩原の素十の句碑や秋の蝶  
兵舎<sup>知覧</sup>跡コスモス右に戦ぎけり  
色鳥や桜島よりフェリー来る  
飫<sup>お</sup>肥<sup>び</sup>杉のネームプレート色鳥来  
榧の実の小さな毬に刺されけり  
唇にななかまどの実道祖神

夕北ア木小秋背  
 暮風メ枯春薊を  
 れのに横し日長反  
 の揺でにや屋ら  
 枯れ好軋娘門し  
 野る物む嫁嫁門仰  
 に木の探格子いで大  
 伸び影師走観音広し道雲  
 る硝走かかな堂し道雲

湯本実

古船山冬炒  
 民頭の寺日る  
 家の操のの差南  
 の崩舵苔居京  
 え室庭間豆  
 しよ覆に弾  
 瓦りふ眠ける  
 や雪散し音  
 冬日富紅柴冬  
 日差富士葉犬の  
 し士葉に夕

山岸甲一

## ◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
3月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	7日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	24日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
4月	2日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・瑞泉寺	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	25日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
28日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男	

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

4月15日(日)の吟行。集合は10時。JR横須賀線・鎌倉駅東口改札口  
(東京から進行方向左側・若宮大路側)。句会場：鎌倉生涯学習センター  
第6集会室。

◎ 連絡先 瀬 島 孟 ☎ 048-862-2757 藤 井 美 晴 ☎ 0422-55-2733  
大 島 英 昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870  
廣 瀬 雅 男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565  
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ